

令和2年度ごみ量について

◆表1◆

項目	令和2年度実績	令和元年度実績	増減	一般廃棄物処理基本計画目標	
				R2年度※	R4年度
人口(10/1基準)	237,636人	236,880人	756人	236,961人	239,512人
総排出量	62,859トン	61,393トン	1,466トン	—	—
原単位	724.7g/人日	708.1g/人日	16.6g/人日	—	—
家庭系ごみ原単位	392.1g/人日	378.0g/人日	14.1g/人日	365.7g/人日	360g/人日
家庭系ごみ資源化率	39.4%	39.6%	▲0.3ポイント	41.1%	41%
総資源化率	42.6%	42.4%	—	43.2%	43%
最終処分量	0	0	—	0	0

※R2年度目標値は、平成29年度実績と最終年度(R4年度)目標から算出した按分値です。

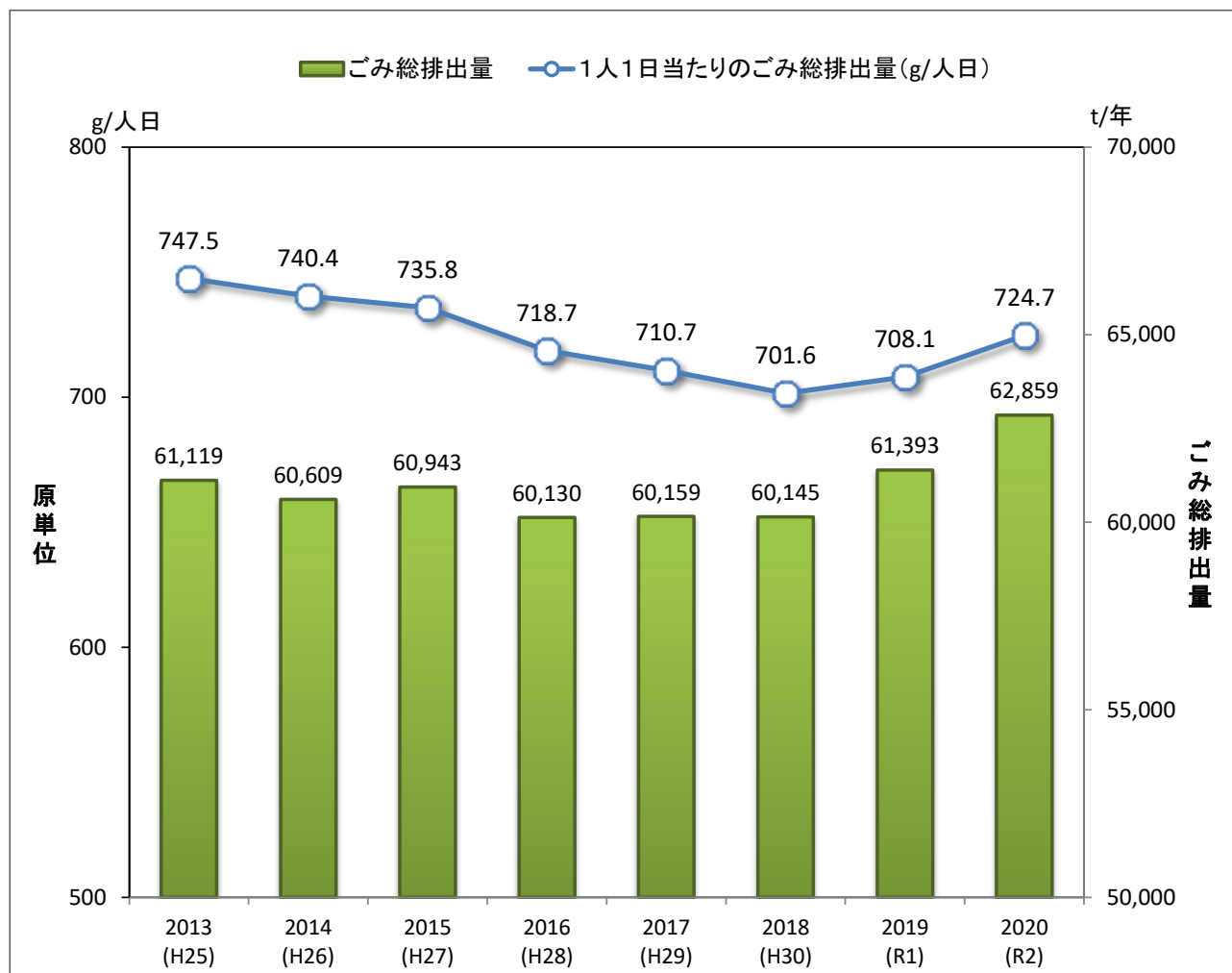
◆表2◆

*単位：トン

項目		令和2年度実績	令和元年度実績	増減	増減率
可燃ごみ	家庭系	28,351	27,455	896	3.3%
	事業系	6,769	7,104	▲335	▲4.7%
	小計	35,120	34,560	560	1.6%
不燃ごみ等	不燃ごみ	3,655	3,377	278	8.2%
	有害ごみ	95	92	3	2.9%
	小計	3,750	3,469	281	8.1%
粗大ごみ	可燃性粗大	1,031	1,023	8	0.8%
	不燃性粗大	420	381	38	10.0%
	粗大資源	459	441	17	3.9%
	小計	1,909	1,845	64	3.5%
資源物	古紙類	9,324	9,114	210	2.3%
	古布類	1,383	1,218	165	13.6%
	びん	1,960	1,776	184	10.4%
	缶	651	593	58	9.8%
	牛乳パック	24	25	▲0	▲1.3%
	ペットボトル	975	954	20	2.1%
	容器包装プラスチック	4,251	4,181	70	1.7%
	小型家電	5	3	2	72.9%
小計	18,573	17,863	710	4.0%	
収集ごみ量		59,352	57,738	1,614	2.8%
集団回収		3,507	3,655	▲148	▲4.1%
合計(総ごみ量)		62,859	61,393	1,466	2.4%

*単位未満四捨五入のため、数値が一致しない場合があります。

1 総ごみ量の推移



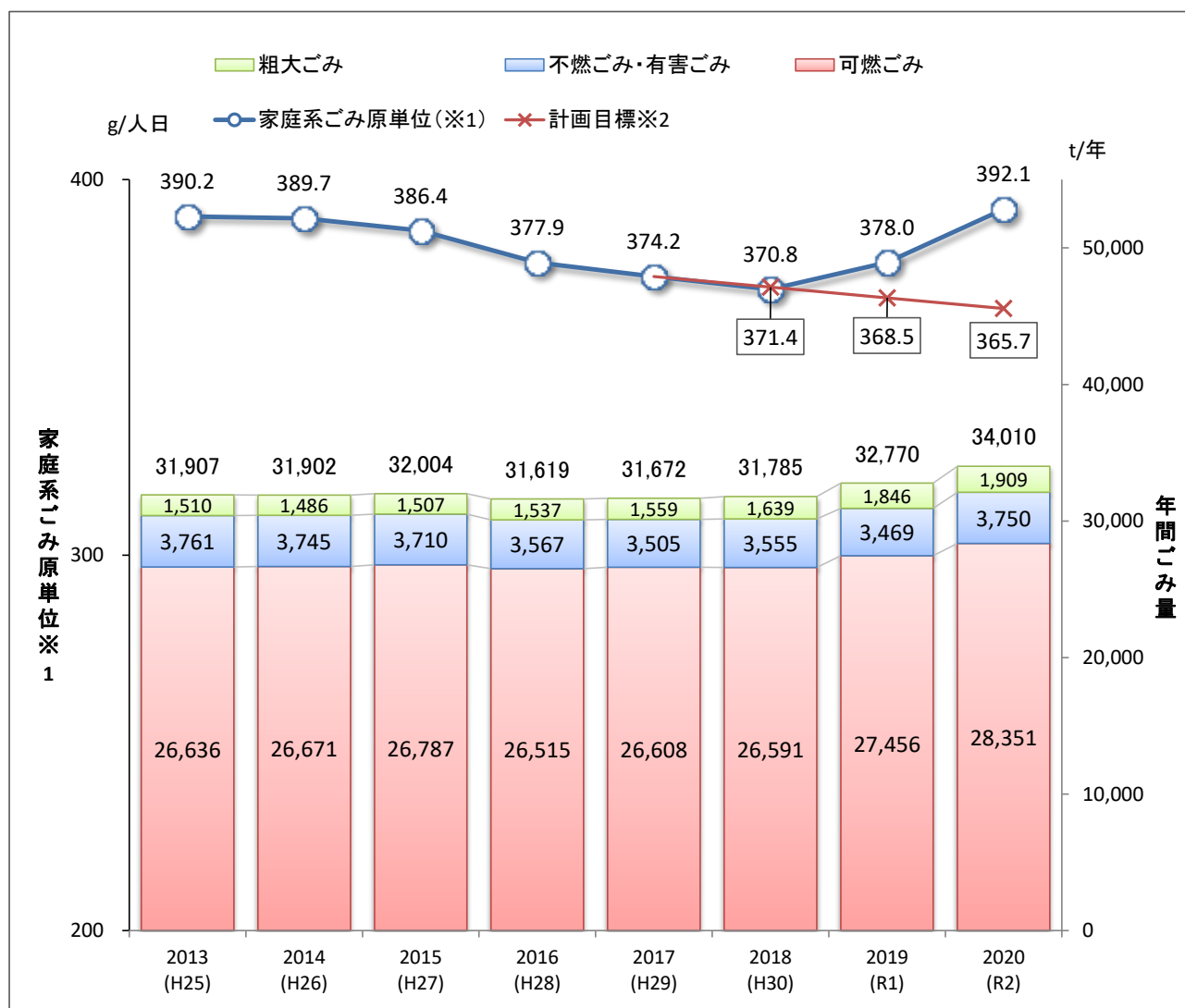
※ごみ総排出量：家庭系ごみ＋事業系可燃ごみ＋資源物（集団回収を含む）

1人1日当たりのごみ総排出量（原単位）：ごみ総排出量÷人口÷年間日数

令和2年度のごみ総排出量は62,859トンと前年度比1,466トンの増加となりました。1人1日当たりのごみ総排出量（原単位）も、724.7g/人日と前年度比で16.6g/人日（2.3%）の大幅増となっています。

増加の主な要因は、新型コロナウイルス感染症拡大による家庭における巣ごもり需要（飲食料品、日用品、粗大ごみ）の増大にあると考えられます。

(1) 家庭系ごみ量の推移

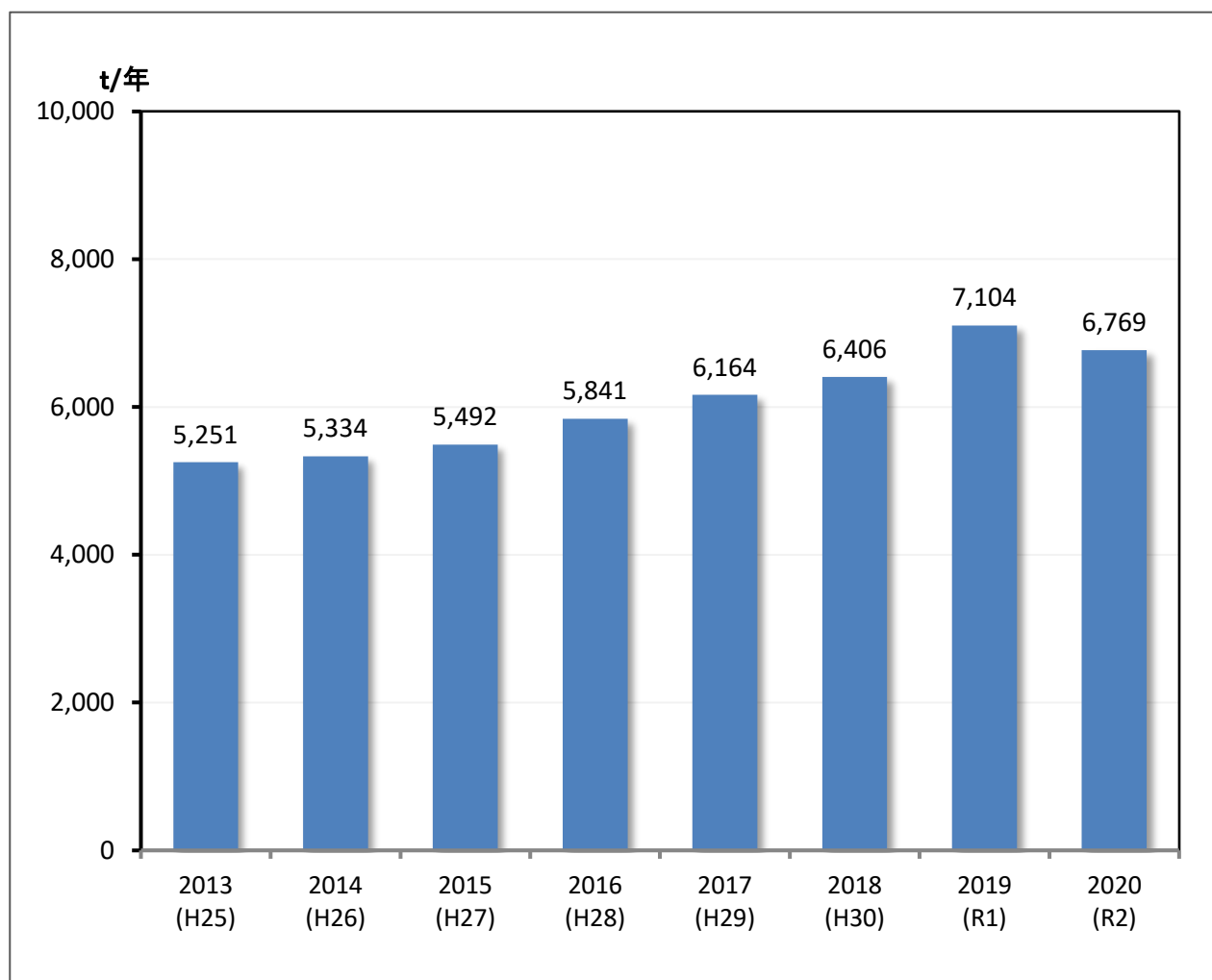


- ※ 1 家庭系ごみ原単位：家庭系ごみ（可燃,不燃,有害,粗大）÷人口÷年間日数
* 事業系可燃ごみや資源物は除きます
- ※ 2 平成 30 年度～令和 2 年度の計画目標は，平成 29 年度実績と最終年度（R4 年度）目標から算出した按分値です。

令和 2 年度の家庭系ごみ排出量は，前年度より 1,240 トン（3.8%）増加して 34,010 トンでした。増加の内訳は，可燃ごみは 896 トン，不燃・有害ごみは 281 トン，粗大ごみは 64 トンです。

これに伴い，家庭系ごみ原単位（市民 1 人 1 日当たりの排出量）は，3.7% 増の 392.1g/人日となり，令和 2 年度目標値 365.7g/人日（令和 4 年度目標から算定）を 26.4g/人日上回る結果となりました。

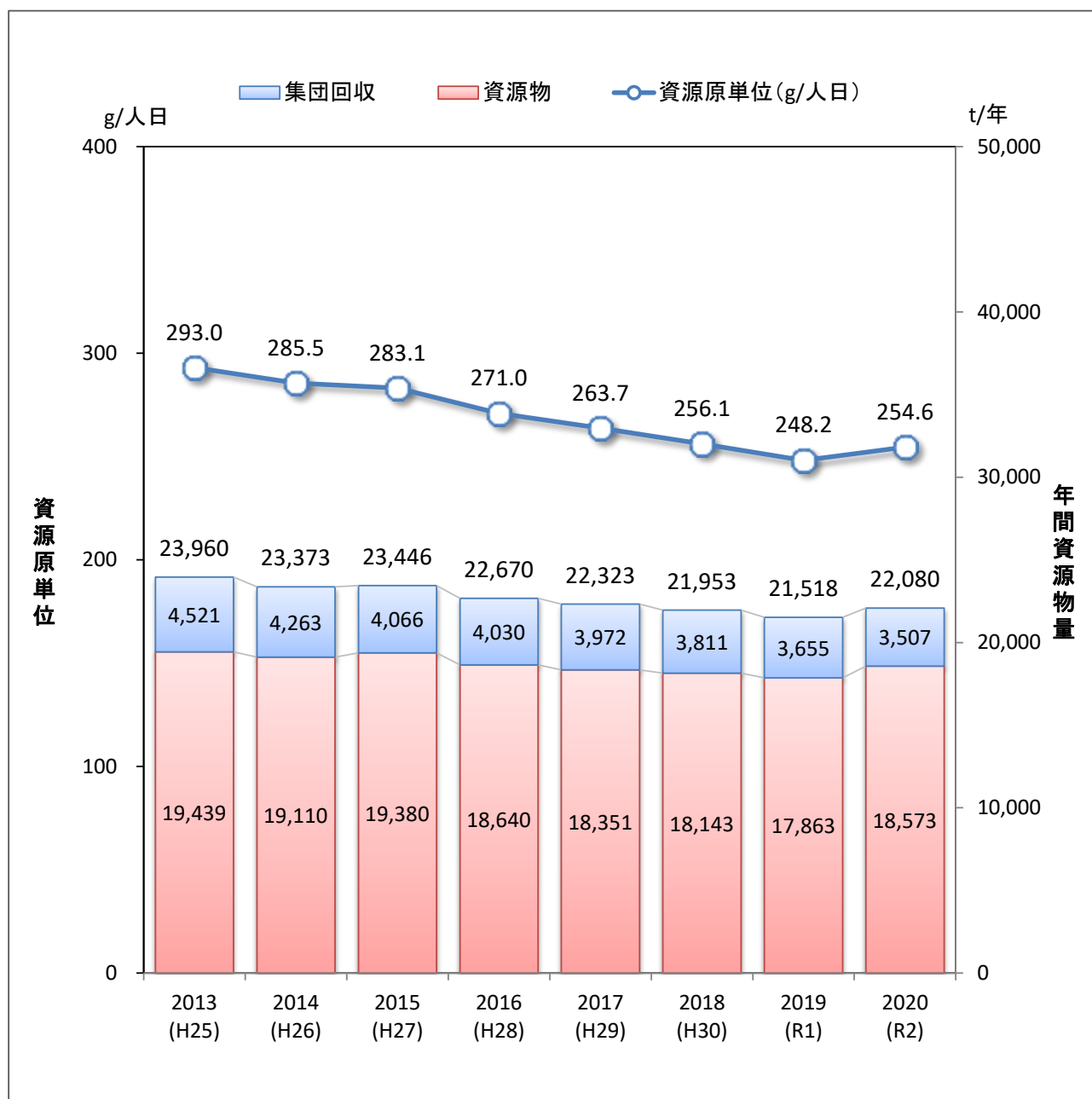
(2) 事業系可燃ごみ量の推移



※事業系可燃ごみ量：清掃工場に持ち込まれた事業系の可燃ごみ量

令和 2 年度の事業系可燃ごみ量は 6,769 トンと、対前年度比で 335 トン（4.7%）の減少となりました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う飲食店の営業自粛など、商業活動の抑制が反映される結果となりました。

(3) 資源物・集団回収量の推移



※資源物：行政が分別収集した資源

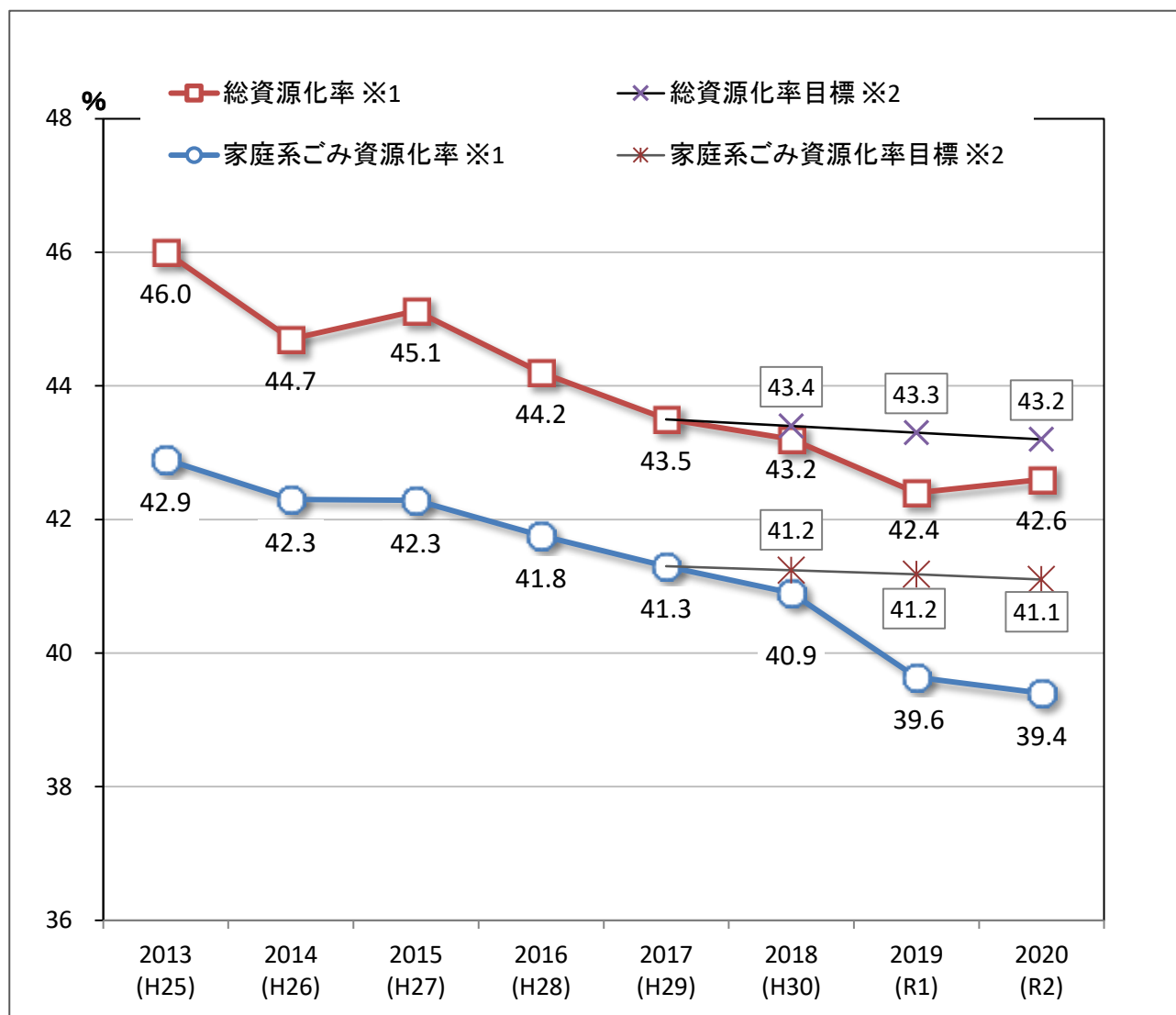
集団回収：自治会やPTAなど市民団体が回収した資源

令和2年度の資源物・集団回収量は、昨年度から562トン増（前年度比2.6%増）の22,080トンとなりました。原単位（1人1日あたりの量）も前年度比2.6%増の254.6g/人日となっています。

1ページの品目別の増加量を見ると、古布類、びん・缶の伸び率が10%前後と大きくなっています。

一方、集団回収量は前年度より148トンの減少となっています。減少した理由は、古布の売り払い単価が減少したこと及び作業の担い手が不足していることによるものです。

2 資源化率の推移



※ 1 総資源化率 = (資源物 + 中間処理施設資源化量 + 集団回収) ÷ ごみ総排出量

* 粗大ごみからの金属回収や焼却灰のエコセメント化を含む

家庭系ごみ資源化率 = (資源物 + 集団回収) ÷ (ごみ総排出量 - 事業系ごみ量)

* 家庭から出る不用物の内、資源として分別された割合

※ 2 平成 30 年度～令和 2 年度目標は、平成 29 年度実績と最終年度 (R4 年度) 目標から算出した按分値です。

資源物・集団回収量は増加しましたが、ごみ量がそれ以上に増加したため、家庭系ごみ資源化率は前年より 0.2 ポイント減の 39.4%となりました。また、総資源化率については前年より 0.2 ポイント増の 42.6%となりました。